

あの人と、劇場へ。

フェニーチエ堺

FENICE SACAY



巻頭特集

出演者に聞く!

オペラ『セビリアの理髪師』

富岡明子&須藤慎吾インタビュー

観覧エッセイ 蓮見恭子 (作家)「ストリートの風に吹かれて」

2022
vol.20

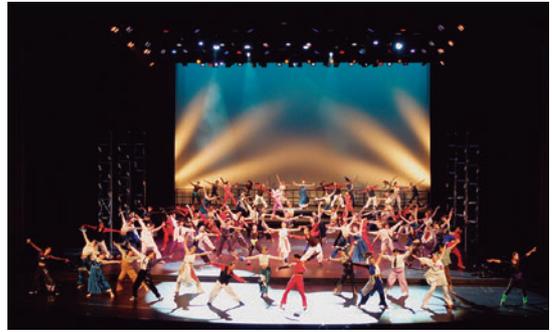


ストリートの風に吹かれて

作家 蓮見恭子

Dance Power 2022 in フェニーチェ堺

8月27日公演



一瞬、17歳の自分に戻っていた。

私が学校で習ったのはフォークダンスか、せいぜい創作ダンスで、部活でダンス的なものといえば、新体操とかバントワリングぐらいしか思い浮かばない。ダンスミュージックで踊れる場としてディスコがあったけれど、普通の高校生にはハードルが高く、学校にはディスコダンス部もなかった。

ましてや、ストリートダンスと言えば「ラジカセで音楽を流しながら、路上で踊ってるアレ?」という認識で、テレビで放映されていたキッズダンスイベント『FRONTLINE』を観ながら、「今は子供がヒップホップを踊る時代なんだ!」と驚くぐらいだから、完全に置いてけぼりをくらっている。

それでも、荻野目洋子のヒットソングに乗って、バブリーな装いで踊る登美丘高等学校ダンス部の存在は知っていた。

「蓮見さん。大阪の高校ダンス部は層が厚いんですよ」

そんな風に聞いて調べてみると、確かに。今年の「日本高校ダンス部選手権 夏の公式全国大会」のトップ3は大阪の高校で占められ、堺市の泉陽高等学校は8位に入賞している。堺市からは他に初芝立命館高等学校が、高石市からは羽衣学園高等学校が出場を果たしている。

『Dance Power』は元々、堺市市民交流広場(堺市役所前)で行われていたのが、2020年から会場をフェニーチェ堺に移された。ところが、新型コロナウイルスの流行で制限がある中での開催が続き、今回は3度目の正直で、ようやくホールに観客を入れてのお披露目が実現。参加校の生徒さん、関係者ともに“満を持して”という表現が相応しい大会となった。

『Dance Power 2022 in フェニーチェ堺』には前述の4校に加えて、堺りべラル高等学校、大阪商業大学堺高等学校、精華高等学校、帝塚山学院泉ヶ丘高等学校、香ヶ丘リベルテ高等学校、鳳高等学校、東百舌鳥高等学校、金岡高等学校、堺西高等学校が出場し、バルコニー席が設けられた、赤い座席が整然と

並ぶクラシックな空間は、吹き荒れるストリートの風で、がらりと様相が塗り替えられた。

私世代にも馴染みのあるブレイクダンスや、バレエの動きを取り入れたジャズ、バク転が入ったアクロバティックなヒップホップ、身体をLOCK^{※注1}する動きが特徴的なロックに、鞭のようにしならせた腕を身体に巻き付けるワック^{※注2}、ジャンルの枠に囚われず自由に踊るフリースタイル等々——。

中には「校内でオーディションをして、選抜チームで挑む」という大所帯のダンス部もあるというから、まさにレギュラー争いでしるぎを削る体育会系の部活そのものではないか。

圧巻はトリを飾ったフィナーレダンスだ。カリスマ振付師akaneの振付で、各校の代表が順にダンスを披露するのであるが、ラストはステージに100名が立ち、一斉に跳ね、舞い踊る。

みんな笑顔だった。何て健康的で、爽やかなんだろう。

仲間と一緒に3年間かけて完全燃焼。部活動としてのストリートダンスもちろん楽しい事ばかりじゃないだろうけど、きらきらした青春小説が書けそうな気がしてきた。

もはやダンスは一部の特別な人のものではないのだ。毎日通っている学校で昼休みや放課後に練習できるし、日頃の成果を発表する場もある。ちょっと手を伸ばせば届く、身近なエンターテインメントなのだ。

10代の頃にあんな風に踊ってみたかったな。

祭りの後の興奮と、ほろ苦さを噛み締めながら、帰路についた私だった。

※注1 ロック (Lock) は1970年代に誕生したストリートダンスで、ロック (Lock) は錠を意味し、激しい動きから突然静止しポーズを取る(ロックする)スタイルが特徴。ロック(ダンス)全体を示すことが多い。

※注2 1970年代にアメリカのクラブやディスコが発祥となるダンス。主に腕を鞭のように振り回したり、胸の前後のしなりやツイスト、腕を巻きつけるような動きが特徴的でターンもよく繰り出される。



メディコ・ペン 万年筆よろず相談

蓮見恭子 作 ポプラ社 本体1,600円+税 好評発売中

「あなたの人生が変わります 万年筆よろず相談」

そんな看板を掛けるお店「メディコ・ペン」は、神戸の街の一角にある万年筆屋である。店主は年齢不詳でぶっきらぼうだが、補修を任せたら随一。万年筆の状態から持ち主の悩みや苦しみまで読み解き、答えを導いてくれるのだとか。就職活動がうまくいかず、「メディコ・ペン」でアルバイトすることになった大学生の砂羽は、それぞれの悩みを抱えるお客と触れ合う中で、自分自身の迷いにも向き合いはじめ——。

蓮見恭子 (はすみ・きょうこ)

1965 (昭和40) 年、大阪府堺市生れ。大阪芸術大学美術学科卒業。2010 (平成22) 年、『女騎手』で第30回横溝正史ミステリ大賞の優秀賞を受賞し、デビュー。主な著書に「国際犯罪捜査官・蛭川タニヤ」シリーズ、『ガールズ空手 セブンティーン』『襦を、君に。』など。『たご焼きの岸本』が第8回大阪ほんま本大賞を受賞。

巻頭特集 出演者に聞く！

オペラ『セビリアの理髪師』

富岡明子&須藤慎吾インタビュー



富岡明子



須藤慎吾

いよいよ上演がせまる、NISSAY OPERA 2022 オペラ『セビリアの理髪師』。皆様、準備はよろしいでしょうか？ 幼少期に移り住んだ本場イタリアでオペラ演出の腕を磨いた粟國 淳のもと、東京・日生劇場での公演を成功させた実力派キャスト陣が勢ぞろいし、本作によってイタリア・オペラ史に名を刻んだ作曲家ロッシーニの調べを、沼尻竜典と日本センチュリー交響楽団のタッグ※1が奏でるといふ、これ以上ない陣容で迎える待望の堺公演！ とともに関西出身であるヒロイン・ロジーナ役の富岡明子氏(兵庫県)と真の主役であるフィガロを演じる須藤慎吾氏(和歌山県)に、本作についてうかがいました。

※1 2008年から2014年まで沼尻竜典が日本センチュリー交響楽団の首席客演指揮者を務めた。

町娘ロジーナに恋する青年貴族アルマヴィーヴァのために、その機転で恋の成就に一役買う“町の何でも屋”ことフィガロ。遺産目当てで若い2人の恋路の邪魔をするバルトロ医師よりも、実はずっと曲者^{くせもの}ではないのか、と思わせるシーンが随所に出てきます。時おりフツとただよう危険な香りは須藤さんならではと思います。演技で意識していることは？

そこに気づいてもらえるとうれしいですね。今回のフィガロは人の心の機微を見抜くことに長けた、ちょっと油断のできない男。一步踏み込んで様子を見て、「危うい」と感じるとサッと身を引くことができます。その絶妙な距離の取り方が、彼をただの機転の利く助っ人では終わらない、どこか二面性を感じさせる魅力的なキャラクターにしているのだと思います。(須藤氏)

——ヒロインのロジーナは後見人のバルトロによって、心身ともに半ば囚われの生活を送っています。200年以上前に創られた物語なので、自由に生きる現代人とはまた違った女性像が描かれているわけですが、富岡さん演じるロジーナがその違和感をあまり感じさせないのはどうしてでしょう？

ロジーナはとてもひたむきで、かわいい女性です。バルトロにしつこく邪魔をされてもお、力強く恋心を抱き続けられるのは、若さゆえの無知や意地悪をされてもめげない純粋さがあるからですが、ただ待つ身ではなく、自分もどうか

バルトロを出し抜いて、想い人とコンタクトをとろうとする積極性もあります。そこに“ひとつまみの塩”のような「こずさ」をうまくミックスして、お客様が共感できるキャラクターになればと思っています。(富岡氏)

——一般的にオペラは最初のハードルが高い芸術ととらえられがちですが、本作は軽妙な恋物語で、難しく考えることなく楽しめます。おまかならずにだけ知っていただければ、日本語字幕をそれほど目でも追わなくても十分にお話がわかります。

周りのお客様はどんな人なのだろうとか、どこまで事前に作品について勉強しておいたほうがいいのか、オペラの鑑賞に少し不安になる方もいるかもしれませんが、でも安心してください。オペラ『セビリアの理髪師』はハッピーエンドで終わる作品で、初心者にもうってつけです。創られてから何百年たっても客席から笑いが起こる、シンプルな面白さがあります。時代を超えて残っていくものの凄みを感じるくらいです。(富岡氏)

ハードルが高いという意見には、少し異論があつて。すべてを最初からわかる必要が果たしてあるのかな、と。たとえば僕は若い頃にヘヴィメタル※2を好きになったのですが、初めは当然ながら全然わからないんですよ。英語の歌詞の意味もよくわからないし、楽器の音もわかりません。でも、単純に「かっこいいな!」と思ったんです。オペラも同じで、初めて聴く歌手の歌唱技術に驚いたり、豪華な舞台セットや衣装に目を奪われたり、どこに魅了されるかは人それぞれです。幸い、今度の舞台は表にも裏にも素晴らしいスタッフがそろっています。フェニーチェ堺の大ホールで、お客様とオペラとの素敵な出会いの瞬間に立ち会えることを願っています。(須藤氏)

※2 ロックミュージックのスタイルのひとつ。演奏のテクニックや多様な音響効果特徴。

演出家によって役の解釈やシーンの味付けが変わるところが、オペラの面白いところ。もしかしら、今作のフィガロやロジーナはあなたが知っているキャラクターとは少し違っているかもしれませんが、指揮者とオーケストラの関係も同じです。工夫の凝らされた舞台セットにもご注目ください。

OPERA
大ホール

NISSAY OPERA 2022

オペラ『セビリアの理髪師』 全2幕(原語[イタリア語]上演・日本語字幕付)

12月3日(土) 開演14:00

指揮:沼尻竜典 演出:粟國 淳
アルマヴィーヴァ伯爵:中井亮一
ロジーナ:富岡明子
フィガロ:須藤慎吾
バルトロ:黒田 博
ドン・バジリオ:伊藤貴之
ベルタ:種谷典子
フィオレッコ:宮城島 康
管弦楽:日本センチュリー交響楽団



©三枝近志



©三枝近志

好評発売中 SS席10,000円 S席8,500円 A席7,000円 B席6,500円 C席3,500円

主催:フェニーチェ堺 公益財団法人 ニッセイ文化振興財団(日生劇場) 企画・制作:公益財団法人ニッセイ文化振興財団(日生劇場)

協賛:日本生命保険相互会社 助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



W S U 216-373

54529 e CN



片桐功敦(かたぎり・あつのぶ)

花道みささぎ流家元。1973年堺市生まれ、堺市在住。人類が原始的にもつ、植物や自然への憧憬や畏敬の念を具現化するために、民俗学を手掛かりに、いけばなの技術を用いた表現方法を模索している。空間設営から撮影までをこなし、個展を中心に精力的に活動が続いている。出版に写真集『Sacrifice—未来に捧ぐ、再生のいけばな』(青幻舎 2015)などがある。近年の展覧会にヴァン クリーフ&アーベルとコラボレーションした「LIGHT OF FLOWERS ハナの光」(代官山T-SITE GARDEN GALLERY 2021)、国際写真展「KYOTOGRAPHIE」(二条城 2021)他。

花

ふれる堺。

幼少期はどのようなお子様でしたか？

幼少期はごくごく普通の子供で特に変わったところのない子供だったと思います。当時はこの辺り(堺区)も自然が豊かで、毎日野遊びをしていました。あと、まだゆるい時代だったので、古墳にこっそり入ったり、オタマジャクシを捕まえて家でカエルになるまで育てたり、庭先にトンボや蝶々、カナブン、カミキリムシなんかもたくさんいましたので、虫取りもよくしていましたね。勉強は嫌いでした(笑)。中学を卒業して、親類がアメリカにいた関係で6年間留学し、初めはメイン州というアメリカの一番北東の端っここの州、その後北西のシアトルに行きました。最初の1年間は語学学校に通い、国籍や年齢もバラバラの中で英語を学んでから高校に進学し、その後大学で陶芸を専攻していましたが、2年通ったところで、祖父の体調が悪くなったので休学して帰国しました。

なぜ陶芸を専攻されたのでしょうか？

高校の美術の時間に選んだというか、人気がなかった陶芸のクラスにたまたま入ってしまった。家の仕事柄、幸か不幸か子供の頃から色々な器を見ていたので、見よう見まねで作ったり、先生から芸術大学に推薦すると言われ、そのままシアトルの芸大に進学をしました。今は陶芸をやめて何十年と経つてますし、陶芸家の知人もたくさんいるので、おこがましくてもう一度土をさわろうなんて思いませんが(笑)。

花道みささぎ流はどのような経緯で設立されましたか？

祖父が創設した流派ですが、祖父はどこかの流派に所属して免許皆伝を得てというタイプではなく、今も形を変えています。昔、市井の文人ぶんじんといわれるような人がいて、俳句やお茶などを嗜む人が街角にも多くいましたが、祖父もそういう人でした。元々日本画を描くのが好きなようでしたが、画家にはならず、市役所で働いていました。その間にもお茶やお花をずっと嗜んでいたこともあり、市役所の女性の方々に教えてほしいと言われて、サークルのような形から始まったようです。祖父の定年後もそのまま習いたいと申し出てくれる人がいたので、せっかくなので、流派を作ろうとなり、すぐそばの大仙陵古墳の正式名称「百舌鳥耳原中陵」もずのみみはらのなかのみささぎから、『花道みささぎ流』と名付けたようです。

写真はいつごろから撮るようになりましたか？

僕も国際写真展に作品が展示されるなんてことは考えていませんでしたが、狙いに行ったわけではなく、お花の存在と時代の声がピタッと合うと、こういうこともあるんだなと思えました。だから未だに、普通のスナップ写真とかはぜんぜん撮れなくて、お花の写真しか撮れないんです。写真を撮り始めたきっかけは、写真家の方に撮影をお願いすると2次利用の際に面倒だったり、自分の思っているイメージと少し違うこともあったので、自分で撮ったほうが早いなと思い、練習し始めました。友達に写真家が多いこともあり、撮影を見たり質問したりしながら、1年間練習をし、本格的に撮影を始めたのは震災後からです。福島県立博物館の文化事業注2の招聘アーティストの一人として呼んで頂いた際、福島の復興の様子を、花を絡めて写真に収めるという作品作りを始めたころからです。

※注2 『はまなか』という文化連携プロジェクト「アートを通じて福島の文化や自然、震災の記憶を伝えること」を目的とした文化庁と地域の美術館や博物館による連携プロジェクト。

福島に移住をして作品を作られていたそうですが、福島の人々はその活動をどう思われていたと思いますか？

1年間という枠組みを決めてあちらに部屋を借りて、月に1回5〜6日だけ大阪に帰ってくるという生活をしていました。1年いると知り合いも増えてきましたが、最初はどう思われるか怖かったですね。撮影をしていた場所が帰宅困難区域で人にほとんど合わない場所ということもあり、こそっと作品を作っていました。活動しているうちに地元新聞社が取材にきたりメディアに出始めると、だんだんバレルというか、興味をもつて連絡してくれる人が出てきたり、徐々に地元の方々と仲良くなっていきました。被災者すべての方は、人が亡くなりましたが、僕が出会った人たちは、人が亡くなった場所、戻れなくなった故郷に、お花を供えているという風に見えていたようで、「私たちは行けないけど、わざわざ行ってお花を供えてくれてありがとう」というような意見が一番多かったです。こちらからすると、供えるというよりは、いける、ということをしていました。一般的には供えるという感覚になるんだなあと思えて色々と考えさせられました。



©Atsunobu Katagiri



(上)©Van Cleef & Arpels (下)©Atsunobu Katagiri

一般的な型にはまった華道の作品というよりも、メッセージ性の強いインスタレーション作品を作られています。スタイルになりましたか？また初代のお爺様、二代目のお父様はどのようなスタイルでしたか？

祖父は高齢だったので、よく分かりませんが、父はただの飾り物としての花ではなく、意思のあるしつかりとした作品として見てもらえるように努力していたように思えます。僕に関しては、最初からです。ただ綺麗だなあで終わるのではなく、その背景に何があるのかな？と考えさせる作品でなければいけない、と思っただけでやりました。その時々でテーマや作品にこめたストーリーは変わりますが、いわゆる「いけばな」ではなくて、他のメディアと変わらず、作品として見てほしいという想いが強いんです。父は、花の枠組みの中だけではなく、美術という流れの中で花がどういう位置にあるのかを、俯瞰的な目線で、世のなかに発信することはなかったかと思えます。割と僕は流れに身を任せているところがあったという感じなので、試行錯誤しながら何となく自然の流れの中でたどり着いたという感じです。

下鴨神社で開催される展覧会は、どのようなものになりますか？

ここ何年間かご一緒にしているフランスパリのハイジュエリーブランドのヴァン クリーフ & アーペルの展覧会になります。花にとつて「光と水」という要素は不可欠です。ジュエリーも「光」がないと輝かないことから、去年の春に「光と水」をテーマにした展覧会を東京の代官山で行い大成功を収めたので、今度は会場を関西に移し、京都の下鴨神社で秋のバージョンをやるということになりました。会期は11月の初旬から12月の半ば、錦秋から晩秋のいったん植物がなくなる時期までの移ろいの時期ですが、「水と光」というテーマはそのままに、もちろん花が中心ですが、落ち葉という要素を盛り込む予定です。花というと綺麗に咲いている状態をイメージされがちですが、僕たちが花と呼ぶときは、葉も茎も立ち姿も花が終わったものや、実になった部分もすべて含めて花と呼びます。落ち葉は、見様によつてはすごく美しいもので、赤とオレンジと茶色のグラデーションが1枚の中に混在したり、思いがけず虫に食われた跡がリース模様のようになっている、そういう終わりつつあるものや終わってしまったものの美しさも合わせながら、季節の終わりの植物の姿を見てもらおうという趣旨です。会期中コンセプトは変わりますが、季節が変わっていくのでお花は細やかに変わっていきます。下鴨神社自体が街中にも関わらず京都の原生林的自然な森を未だに残している珍しいエリアなので、森の中に点在する作品、花、下鴨神社の空気をセットで見てもらえると嬉しいです。

LIGHT OF FLOWERS 花と光

会期 2022年11月3日(祝・木)～12月12日(月)

時間 10時～17時

会場 世界遺産 下鴨神社(賀茂御祖神社)境内
京都市左京区下鴨泉川町59
予約不要、入場無料

主催：ヴァン クリーフ&アーペル アーティスト：片桐功敦



©Van Cleef & Arpels